



3月25日～3月27日の3日間、沖縄戦の実相と現在の沖縄が抱える基地問題を学び平和について考える機会として開催されているピースアクションinオキナワに参加した組合員とご家族から感想をいただきましたので掲載いたします。(写真：平和の礎前にて)

白石 瑛瀬さん 中学3年生(参加時点)

私が、今回ピースアクションinオキナワに参加し、感じたことは三つあります。

一つ目は、玉木利枝子さんのお話です。大切な人を目の前で亡くしたり、自分が被害にあつたりしたお話を直接聞いて、改めて戦争は大切な人を奪う恐ろしい出来事だと分かりました。今、世界で戦争をしている国があります。自分は、戦争の恐ろしさを少しでも伝えたいと思います。

二つ目は、糸数壕(いとかずこう)です。戦時中、大きな壕を病院として使った兵隊のお世話などをしていました。十分な手当てや食事などが出来ない中でさらに戦況は悪化し、多くの人が亡くなりました。米軍が近づいてくると動けない人は壕から出て、次の壕へ。動けない人は米軍に捕まるくらいなら毒を飲んで死ぬ(自害)ということもあつたそうです。

ガイドさんから当時の様子を聞き、戦争中はみんな、自分のことしか考えられなくなり、他人のことや気にしてられないというのを知りました。戦争は環境を変えるだけでなく、人間の心も変えてしまうことが分かりました。平和祈念資料館では、当時の着ていた服がありました。小さい子供の写真や亡く

なつた方の写真がありとても驚きました。ヘルメットや戦車の一部も残っているのを知りました。戦火に巻き込まれた住民は、食べるものもなく、草の葉や根を口にしていた生き抜いたそうです。犠牲になるのはそこに住んでいる普通の人がだとして実感しました。



▲糸数壕に入る前に説明を受ける参加者。糸数壕は陸軍病院としても使用され、暗く狭い洞窟の中で、負傷した人の治療が行われていました。

三つ目は、沖縄の基地問題です。戦争が終結しても沖縄には米軍が残っており、様々な事件・事故が多発しました。それなのに現在でも沖縄本土の15%が基地となっています。騒音や墜落事故など住民のみなさんが苦しんでいることを知りました。

今回の企画で学んだことをこれから出来事につなげていけるようにしたいです。友達や家族にも伝えて、戦争は、一番してはいけないということを知ってほしいと思います。

二日目の行程が終わった後、国際通りへ行き沖縄でしか買えない食べ物やキホルダーをたくさん買いました。さつまいものお菓子、シークワサーのお菓子や、シーサーのキーホルダーなどを買いました。家に帰ってから、買ったお菓子を食べたところとてもおいしかったです！

日本でも昔は戦争がありました。そのせいで多くの方が亡くなりました。その事実を消えないです。今でも世界では戦争をしている国がたくさんあります。戦争をしても多くの人が犠牲になるだけです。日本もそのうち戦争を始めるかもしれない。今、行きたい所に行き、買い物ができることが幸せだと感じました。

白石 桃子さん

初めて沖縄を訪れました。2日目の最初に嘉数高台という展望台へ行きました。展望台から周りを見渡すと、住宅と普天間基地が隣り合わせの状態であることがよくわかりました。住民の皆さんは毎日、不安で仕方ないと言っています。これが日常と云うのですから心が痛

みます。嘉数高台にはトーチカと呼ばれる穴があり、凄く興味をわき入って見る事にしました。いざ入ろうとするととても狭く幅は1m、高さは60センチ程度でしようか。女の私でも壁に体が当たりしやがんで入りませんでした。中に入り目にした光景は銃を置く場所が二人分あつたこととす。横幅30センチ、縦15センチくらいの間隙です。常にしゃがんだ体勢で戦つていた想像ができました。この戦跡が次世代に平和について訴えているように感じました。



▲平和の礎の石碑には、いまだに氏名がわからない方もおり、～の父、～の母というように記載されている方もいます。

公園内にある資料館に入ると当時使われていた鉄帽子や茶碗などが、たくさん積まれて展示されていました。胸が熱くなりました。他には、鉄の帽子の形がほぼない状態のものもあり、当時の惨状が目に見え、心揺さ振られました。進んでいくと、戦争の生々しい写真もたくさん展示されていました。小学校低学年くらいの子が銃で撃たれ倒れている写真を見たときは強く衝撃を受け、泣きそうになりました。どういう思いで亡くなった事でしょう。

世界に伝えたい。「無差別に戦争して楽しいですか？」平和に暮らす事がとても難しい世の中になりました。私が2泊3日体験し、学んだことを地域に伝えたい。沖縄の当時の惨状や現状はTVなどから得る情報とは全く違うと感じました。その貴重なガマなどの戦績はいつまでも残ってほしいです。未来に受け継ぎ、世界の人々の交流を通し平和をつなぐ事もとても大切です。私も戦争につ

て聞いて学んだことを発信します。今回お世話になった事務局の西澤さん、現地のガイドの瀬戸隆博(せと たかひろ)さん、他、生協のスタッフさん2泊3日間普段知りえない情報を沢山教えて下さり有り難うございました。来年もピースアクションinオキナワがあるなら、みなさん、少しでも興味がありましたら応募してみたいかがですか？人生の1ページに繋げてみてはどうでしょうか？

佐々木 亜依莉さん 中学2年生(参加時点)

沖縄の歴史について学びたいと思いついてピースアクションinオキナワに参加しました。

1日目で印象に残ったことは、「那覇青少年プログラム」という小学校5年生から高校3年生までのメンバーで構成された舞台表現の劇鑑賞です。1944年8月に起きた「対馬丸事件」について、当時犠牲になった約1,500人の方々のことを想い演技、ダンス、演奏をしていただきました。観ていると当時の様子を犠牲になった1,500人の方の無念さを感じ、悲しくなりました。しかしそれと同時に、私と変わらない年齢の子たちが歴史を風化させないために活動をしていることに感動しました。

次は、10歳の時に沖縄戦がはじまり、戦争を体験された玉木利枝子さんのお話を伺いました。当時10歳だった玉木さんは、昭和19年の那覇空襲で家族や友人を亡くされました。行き場の無い戦場の中を生き抜いた記憶を、今も鮮明に覚えていると涙を浮かべながら話してくださり、胸が締め付けられる思いでした。

次の日はガイドさんの説明を聞きながら、戦跡や基地の見学をしました。戦跡には当時の銃弾の痕があり、今も生々しく残っている戦争の恐ろしさや悲惨な出来事があったことを身をもって感じる事が出来ました。



▲嘉数高台のトーチカ跡、銃眼が2か所あり、そこから小銃や機関銃などを出して米軍を攻撃しました。米軍の攻撃による弾痕が残っています。

平和祈念資料館では、当時の写真などが展示されていて、戦争の恐ろしさを改

めて実感しました。また、なぜ沖縄で地上戦が行われたのか、戦争が終結してから沖縄のことが学校では習わなかったことを知ることができました。今もなお世界のあちこちで戦争は起きています。一人ひとりの力は小さいけれど、力を合わせることで大きな力になり、今ある幸せと平和を守る事ができるのではないかと思います。青森に戻り私が経験したこと、教えて頂いたことを多くの方に伝えていきたいと考えています。

佐々木 瞳さん

私は今回、初めて「ピースアクションinオキナワ」に参加し、沖縄を訪れました。沖縄戦で甚大な被害があつたことは学校で習って知っていましたが、1日目の玉木利枝子さんのお話を通して、10歳という年齢で手榴弾で自決された方や、目の前で人がいなくなる光景を経験されていることを知り、「戦争はなんのためにあるのか」と強く考えさせられました。次に「那覇青少年舞台プログラム」による「対馬丸事件」を題材にした「さとうきび」の演劇では、その歌声と迫真の演技に思わず引き込まれました。当時の悲惨な出来事を今の沖縄の子供たちが演じていることに胸が痛くなりました。



▲演劇の様子。沖縄から鹿児島へ出航した学童疎開船「対馬丸」はアメリカ潜水艦の魚雷を受け沈没。800名余の学童が乗り込んでいましたが、750名余が亡くなりました。

3日目には辺野古の大浦湾へ行きました。普天間基地の移設作業により、毎日何台ものトラックが土砂を運び、自然豊かな海が埋め立てられていく光景を目の当たりにしました。「自然を壊してまで必要なものなのか」と疑問を抱くと同時に、戦後処理の歴史的背景を感じ胸が痛みました。現在、高市総理のもとで憲法改正の議論が進んでいるというニュースを耳にしますが、今の平和が決して失われないことを願わずにはいられません。現状、自分一人にできることは限られているかもしれませんが、小さなことからでも、一歩ずつ行動していきたいと強く感じました。